

京都芸術劇場 春秋座 studio21

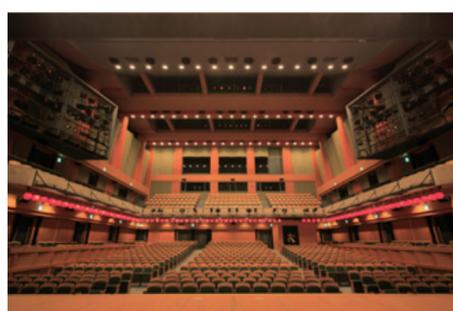
Kyoto Art Theater
Shunjuza
studio21

2022

組織概要 ORGANIZATION

京都芸術劇場 Kyoto Art Theater

京都芸術劇場(春秋座・studio21)は、2001年に京都芸術大学(旧名称 京都造形芸術大学)内に開設された、わが国の高等教育機関でははじめて実現した大学運営による本格的な劇場です。伝統芸能を新世紀へと受け継ぐことはもとより、新たな創作活動を通じてさらなる表現の可能性を追求する実験と冒険の場でもあります。主に歌舞伎の上演を想定してつくられた大劇場=春秋座と、主に現代演劇・ダンスの上演を想定してつくられた小劇場=studio21という、まったくタイプの異なる二つの空間から成り立っており、伝統芸能から実験的なパフォーマンスまで、現代の多様な舞台芸術(=performing arts)を幅広くカバーできる施設を誇っています。



舞台芸術研究センター Kyoto Performing Arts Center

舞台芸術研究センターは、舞台芸術の創造過程の総体を研究対象として、乖離しがちであった「創造の現場」と「学術研究」とのより有機的な結びつきを図るべく、2001年4月に発足しました。春秋座・studio21を活用し、学内外の研究員による上演・研究活動の推進、内外の研究者や研究機関あるいは舞台芸術創造拠点との協同など、舞台創造の現場と密接に連携した研究・創造のネットワーク作りを目指しています。

舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点 The Interdisciplinary Research Center for Performing Arts at Kyoto University of the Arts

舞台芸術研究センターが母体となり、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けて2013年度に設置された研究拠点です。アーティストと研究者とが共同でプロジェクトを立ち上げ、「京都芸術劇場を活用した研究」という独自の研究手法を通して、舞台芸術の創造と受容に関するさまざまなテーマに基づく先端的な研究活動を行っています。

研究公募

創造と研究の連携を通じ舞台芸術の新たなビジョン(可能性)を構想する、意欲的な研究をサポートし、幅広いジャンルにかかわる領域横断的・実験的な試みを公募し、優れた舞台作品の創造をめざして、多種多様な「劇場実験型」「リサーチ支援型」の実践的な研究プロジェクトを支援しています。



2022年度 共同研究事業

【劇場実験型】

- テーマ研究 I 「老いを巡るダンスドラマツルギー」| 研究代表者: 中島那奈子 | JSPS 科研費 JP20H00009 助成研究
- 公募研究 I 2022 「アフォーダンス・コレオグラフィ誘導の振付」| 研究代表者: ハラサオリ
- 公募研究 I 2020 「多層化手法による音楽詩劇の創作と上演
——アークスモニウムを中心とした音楽と映像、言葉の融合」| 研究代表者: 檜垣智也

【リサーチ支援型】

- リサーチ支援型 I 2022 「『明日の寓話』プロジェクト——人間と非人間の新しいナラティブの創作に向けて」
研究代表者: 佐藤朋子
- リサーチ支援型 II 2022 「『インスタレーション/パフォーマンス』における身体と空間」| 研究代表者: 楊いくみ
- リサーチ支援型 III 2022 「近代の個の輪郭をほく演技体——『abさんご』を經由して、劇作論をしたためる」
研究代表者: 西尾佳織

2020-2022年度 科学研究費助成事業

基盤研究(A)「アジアの舞台芸術創造における国際的な「ラボラトリー機能」の実践的研究」
研究代表者: 天野文雄(領域番号20H00009)

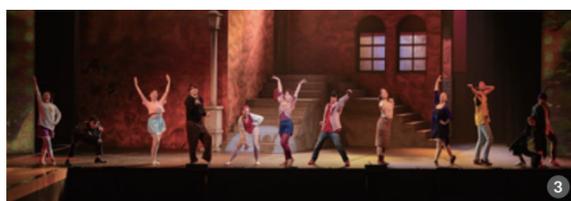
- 鈴木ユキオダンス研究会「器としての身体」
- シャンカル・ヴェンカテッシュワラン演劇研究会
- 日本と台湾の現代舞台芸術交流プログラム
- 「劇場学基礎研究 I」文化都市に建つ劇場にとって必要な条例とは何か
——「THEATRE E9 KYOTO」の事例から劇場文化の環境整備を考える

- 2017年度テーマ研究 I 「ダンスの創造的行為を巡って」劇場実験「ゆるやかに振動する思想と劇場——筒井潤と4人のダンサーによる戯しごと」
photo: Takuya MATSUMI
- 2018年度劇場実験型公募研究 II 「秋元松代研究——台詞の音楽性と新たな「語り」」
photo: Takuya MATSUMI
- 2020年度劇場実験型テーマ研究 I 「(事件)を巡る新作公演のための研究事業」| photo: Kai Maetani *「事件」は2021年度AAF戯曲賞・特別賞を受賞
- 2019年度テーマ研究 II 「4」上演の可能性を巡る劇場実験」



京都芸術劇場では2001年の開場以来、瓜生山学園の学生が公演グッズや宣伝美術のデザインから公演運営まで重要な場面で活躍。未来の舞台芸術界を支える人材育成に貢献しています。

● フロントスタッフ ● 舞台スタッフ ● 舞台芸術学科授業発表ミュージカル公演 | 撮影 顧剣宇



会員制度 | MEMBERSHIP

特典付きのお得な会員制度、京都芸術劇場友の会会員募集中! いつでもご入会いただけます。詳細は京都芸術劇場ウェブサイトをご覧ください。

- 1—— チケット優先予約*
 - 2—— チケット割引販売*
 - 3—— 公演情報等のご送付 *公演により異なります
- 年会費 2,000円(税込) | 有効期限 入金日より1年間

チケット | TICKET

WEB オンラインチケットストア | <https://k-pac.org/ticket/> (24時間) | 要会員登録(無料)

窓口 京都芸術大学・人間館1F 京都芸術劇場チケットセンター窓口(平日10時-17時)

電話 京都芸術劇場チケットセンター | 075-791-8240 (平日10時-17時*臨時休業日を除く)

- 車椅子をご利用のお客様・足のご不自由なお客様は、お電話にてお問い合わせの上、お申込みください。劇場2階席へのご移動は階段のみとなっております。
- バリアフリー対応 | 車椅子スペース、ヒアリングループ、多目的トイレ、スロープ、手すり、点字ブロック

アクセス

- バス
● JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「京都河原町」駅から京都市バス5号系統「岩倉」行きに乗車、「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車。[京都駅から約50分、「三条」・「京都河原町」駅から約30分]
- 京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅[北大路駅バスターミナル]から京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗車、「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車。[約15分]
- 電車
● 京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え「茶山」駅下車、徒歩約10分
- タクシー
● 「京都」駅から約30分
- 地下鉄「今出川」駅から約15分[「京都」から「今出川」は地下鉄で約10分]



TEL 京都芸術劇場チケットセンター: 075-791-8240
京都芸術大学舞台芸術研究センター: 075-791-9207
FAX 075-791-9438
WEB <https://k-pac.org/>

SNS @kyoto.art.theater
@KyotoArtTheater
@kyoto_art_theater



研究活動 OPEN LAB

人材育成 THEATER x STUDENTS

チケット TICKET

アクセス ACCESS

お問い合わせ CONTACT

公演プログラム | PROGRAM LINEUP



伝統芸能から現代演劇、コンサートなど舞台芸術の魅力と普及する多様な公演をお届けします。公演の最新情報は劇場HPよりご確認ください。

5月 22[日] 琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演

琉球王朝時代、新国王任命のため中国から訪れる使者をもてなすため、宮廷でうみだされた歌舞劇・組踊。組踊「花売の縁」は、地方へ出稼ぎにでた首里の下級士族と、その家族の再会の物語です。また、喜歌劇「夜半参」や彩り豊かな舞踊作品をお届けします。
共催 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団

7月 23[土] 京舞と狂言 vol.3——井上安寿子vs.茂山忠三郎

京都の地で伝承され、独自の文化を育んでいる「京舞」と「狂言」。二人の若き継承者、京舞の井上安寿子、狂言の茂山忠三郎を中心に、二つの芸能の魅力と再認識しかつ新たな可能性を探る三年連続企画の最終回。今回は、同じ「世界」を描いた演目比較として、「平家物語」を描いた作品をそれぞれ上演します。

30[土] マームとジプシー『cocoon』

藤田貴大による『cocoon』を新演出で上演します。沖縄戦に動員された少女たちに着想を得て創作された、漫画家・今日マチ子の代表作を原作に、音楽家・原田郁子と共に舞台を作り上げます。2016年、読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞した作品の待望の再演！

8月 21[日] LIVE BONE in 春秋座

NHK教育テレビ「からだであそぼ」の伝説コーナー「踊る内臓」の強力タッグ、ダンサー 森山開次、コスチュームアーティスト ひびのこづえ、作曲家 川瀬浩介がお届けするノンストップ・ダンスパフォーマンス。2010年初演以降国内外25都市以上で上演を重ね、各地を抱腹絶倒の嵐に巻き込んできた作品が春秋座に7年ぶりに登場！

9月 市川猿之助 春秋座芸術監督プログラム



京都芸術劇場 春秋座芸術監督である市川猿之助による舞踊公演を開催します。今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の出演でも注目されている四代目猿之助が選りすぐりの演目をお届けします。他では観られない春秋座ならではの舞踊公演にご期待ください。詳細は決まり次第、ウェブサイトなどでお知らせします。
左：春秋座芸術監督プログラムイメージキャラクター「このすけ」

猿翁アーカイブにみる三代目市川猿之助の世界

第七回フォーラム
京都芸術大学副学長を務め、春秋座初代芸術監督でもあった三代目市川猿之助（現・市川猿翁）から寄贈された資料をもとに、氏の軌跡を振り返ります。
企画 田口章子（京都芸術大学教授）

10月 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2022



毎年国内外の実験的で多様な作品やアーティストを紹介してきた国際舞台芸術祭。「EXPERIMENT（エクスペリメント）=実験」な表現についての思考と対話の場となるジャンルを越境した舞台作品を紹介します。
主催 京都国際舞台芸術祭実行委員会〔京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）〕

11月 立川志の輔 独演会

14年目を迎える毎年恒例の名物公演。古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込み、唯一無二、魅力満載の“志の輔らくご”。今年も春秋座でどんな斬りが出るのか。心に響く笑いと感動たっぷりの落語を超えた落語をご堪能ください。

12月 3[土] 鼓童ワン・アース・ツアー2022——ミチカケ

4[日] 夜明けから深夜まで変わり続ける自然界のリズム「日の出の入り」「潮の満ち引き」「月の満ち欠け」。その長い周期感や、「数」に秘められた律動を太鼓音楽で探求する鼓童の最新作。全曲新曲で上演予定の革新的な意欲作を、春秋座でお楽しみください。

10[土] 日印共同製作『カーストの絶滅』（仮）

11[日] 現行のインド憲法の草案者で、反カースト運動の指導者であったアンベードカル（1891-1956）が執筆したものの読み上げられることになった演説原稿「カーストの絶滅」をテキストに、インドの演出家ジャンカル・ヴェンカテッシュワランと京都をベースに活躍する演出家和田ながらとの初の共同演出で、日印の俳優たちが、演説のことばを舞台に立ち上げます。

1月 29[日] 演じる高校生

毎年秋に開催される高校演劇コンクール近畿大会の優秀校2校を春秋座に招待し、本格的な舞台で作品を上演する企画。春秋座のこけら落とし以来開催してきた21回目の今年は、どこの高校が春秋座の舞台で、どんな作品を演じるのか。恒例のアフタートーク、高校生向けのワークショップも乞うご期待！

2月 4[土] 春秋座——能と狂言

歌舞伎劇場の空間で、花道を橋掛かりにみたく、伝統的な能・狂言をお楽しみいただく、〈劇場能〉の開拓を目指す2009年より続くシリーズ公演。14回目となる今回は、能「隅田川」他を、今回も観世鏡之丞、野村万作、野村萬斎はじめ、豪華出演陣で上演します。

3月 劇作家・松原俊太郎プロジェクト

第63回岸田戯曲賞を受賞した京都を拠点に活動する劇作家・小説家の松原俊太郎による新作戯曲を、俳優と共に創作・上演する研究プロジェクト。演出家不在の稽古場で、劇作家と俳優による対話と実験を経て、新たな「劇言語」を模索します。

教育普及プログラム | LECTURE&WORKSHOP

制作や作品理解を深めるためのトークやワークショップ、アーカイブやオンラインの利活用、定期刊行誌の発行など、より多くの方々へと創造の場を共有していきます。

公開講座 日本芸能史「ジャポニスムと芸能・芸道」

●前期/後期（各14回月曜）| 2022年4月18日-7月25日/9月26日-2023年1月16日
●企画・コーディネーター 田口章子（京都芸術大学教授）
●講師（開催講義順）
諏訪春雄、奥村旭翠、淡路人形座、東儀秀樹、藤間勘十郎、籾内佐斗司、田名網敬一、山村友五郎、沈壽官、山本太郎、宝生和英、壬生大念佛講、田口章子、千宗左、東芋、池坊専好、榎名由梨、嘉数道彦、木ノ下裕一、桂吉坊、森川裕之、常磐津都哉、常磐津都史、天野文雄、井上八千代、茂山忠三郎

公開オンライン講座 少しでも深く読み解く「詩劇としての能」01——『井筒』のすべて

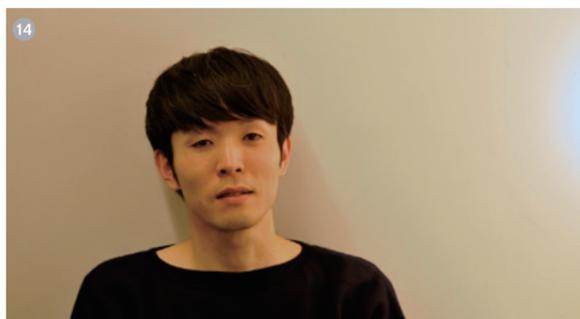
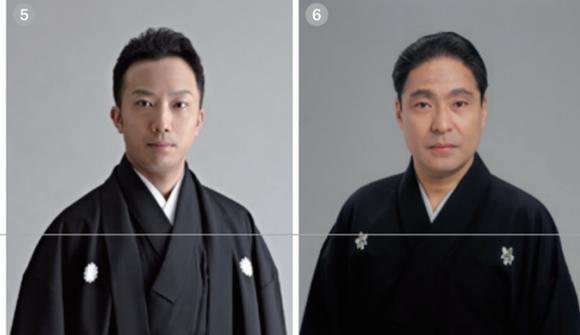
●春期 | 全5回（水曜）| 2022年5月11日-7月6日
●秋期 | 02——『山姥』のすべて（仮）| 全5回開催 | 日程は後日公開
●講師——天野文雄（京都芸術大学 舞台芸術研究センター 特別教授）

公開講座 伝統文化論——歌舞伎から取り出す創作のヒケツ

●全7回（火曜）| 2022年9月27日-11月8日
●講師——木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）、[聞き手]田口章子（京都芸術大学教授）
●場所——一般教室（本学授業を一般公開するものです）

公演関連 トーク・ワークショップ
鑑賞者と作家/作品を多角的につなぐ公演関連企画を実施し、アーティスト/クリエイターの発想力や制作の背景やプロセスに触れる機会を提供します。関連企画の詳細は公演ページをご覧ください。

出版
2002年刊行の舞台芸術研究センター機関誌『舞台芸術』を1-25号まで発行。舞台芸術研究センター主催の実験公演や研究活動の報告や、そのプロセスを公開しています。各号ごとに特集を設け、古今東西のパフォーミング・アーツを今日的な視点で切り取り、21世紀における舞台芸術の新たな可能性について考察しています。



●撮影 桂秀也 ●撮影 井上佐由紀 ●撮影 井上嘉和 ●宣伝美術 服部浩臣 (COM Works) | 写真 岡本隆史 ●Gabriela Neeb ●撮影 守屋友樹 ●大谷高等学校 (大阪) | 「なんてまでき」(2021年度上演校) | 撮影 東千尋 (京都芸術大学美術工芸学科) ●兵庫県立伊丹高等学校 | 「晴れの日、曇り通り雨」(2021年度上演校) | 撮影 東千尋 (京都芸術大学美術工芸学科) ●2021年2月「春秋座 能と狂言」| 能「碓」観世鏡之丞 他 | 撮影 桂秀也 ●Hisaki Matsumoto ●2019年7月日本芸能史「壬生大念佛狂言」●2020年2月「春秋座 能と狂言」能「井筒」| 撮影 井上嘉和